

泊客の消費額は2万7,853円で、日帰り客は3,200円である。観光消費を増やすには、宿泊客を増やす必要がある。本市を含め本県はホテルが少なく度々指摘を受け、問題の解決のため県内でも官が主導してホテル誘致に成功し、新たに宿泊施設が建設される流れとなった。魅力は大仏や鹿だけではなく、中南和にも多くのすぐれた観光資源があり、知ってもらうことが県の観光宿泊客の増加に結びつくことなど県にも訴えており今以上に働きかけたい。市では、インバウンド観光分野、韓国の釜山経商大学との連携や日本文化体験プログラム等の実施により、多くの外国人学生等の集客を行っている。釜山経商大学とは覚書を締結し、一昨年は約1,000名、昨年は900名、最近も約200名の訪問があり、市内に泊まり、施設見学してもらった。長く滞在できるように体験事業などメニューを増やし滞在型の観光につなげたい。

**問** 観光客の滞在時間を増やすことが重要で、インフラ整備などをしていかなければならないが、様々なところを徒歩・自転車・公共交通手段といろんな方法で回りたい方がいると思う。これらをセットにするなどし、充実させると増加につながると思う。本市の観光客向けの一番推しは何か。

**答** 宿泊しても、周遊は少ない傾向は把握している。宿泊閑散期には「かしはらお散歩クーポン」を発行している。市内のホテルに泊まると500円券が2枚付くもので、これは市内の観光施設や周辺市町村でも使えるものである。パンフレット類も、本市が主導し中南和エリア全体など周辺も含め載せ連携を図っている。

**問** やはり近隣自治体と連携をして観光を進めるのが一番と思う。人気アニメのツアーで、地域に行つてミステリーを解くという旅行プランがあるが、本県、また、中南和ではミステリーツアーができる場所がたくさんある。こういうのも実施すれば流行ると思うが。観光客を増やすための本市の方向性と展望を市長に聞きたい。

**答** 滞在が少なく通り過ぎるだけの観光となっている。域にかけては、ゆっくり泊まり実感してもらいたい。来ていただいてから伝えたい情報もある。関連つなぎ合わせ、例えば京奈和が通じたので、世界遺産の高野山と組むなど、どれだけネットを張り、協力し合えるのかじっくり考えて、丁寧に進めたい。我々の地域は、いいものが残っており、それを丁寧に伝えていくことを肝に銘じ頑張っていきたい。

## 図書館のあり方

**問** 平成8年に市立図書館を開館し、多くの方が利用され、多くの図書館ボランティアも活躍されている。冊数も種類も多く、図書館の最初のコンセプトである「本を借りる」という観点ではすばらしいが、本市の登録者数は27.02%であり思ったより少なく驚いている。本県、本市だけでなく全国的に本離れは増えている。図書館のあり方を見直さなければならぬ。現図書館のお勧め部分と、現代に合わせて変えようと考えている部分は。

**答** 図書館の売りは、30万冊という蔵書数で、県内の単館では最大規模である。それと、本市の図書館は、借りやすい図書館としても売りにしており、室内も明るい。資料展示にも力を入れており、12月に、観光政策課により谷三山没後150年記念の講演会を県文化会館と八木札の辻交流館で行われ、これに合わせ図書館でも、2階で谷三山に関する資料展示を行った。時宜に合わせた資料展示は年間15〜20回、ミニ展示も年間30〜40回実施している。また幼児から高齢者に至るまで対象とする本がバランスよく揃えている。改善点は、自習室には長時間にくい図書館設計になっていると思われる、滞留時間が短くなるのかもしれない点がある。

**問** 最初のコンセプトが借りることであるため、今以上に

でいる。1歳6カ月児健診の際に保護者への啓発と赤ちゃんへの絵本をプレゼント、図書館おはなし室に子どもたちを集め話を聞かせる「おはなし会」等を実施し本の世界のすばらしさを伝えている。また、親子手づくり絵本教室では、絵本づくりを体験することで、本に対する興味を持つてもらおう。最近では、自分が読んだ本がいかにすばらしかったかのプレゼン大会（ビブリオバトル）も年に何回か実施している。ボランティア団体の協力を得ながら、中高生を対象にしたPOP（ティーンズ・ブック・レビュー）や古文書講座も実施している。



橿原市図書館